

合 理 と 不 合 理

合理性は、陽光が支配する現代社会では祝福された存在であり、不合理性は逆に、日陰におかれた存在である。科学者にしても、事業家にしても、社会的に承認された立場にある人は、パブリックの場で口にしていいのは合理的なことだけである。不合理なことを前面に押し出すことはあってはならない。たとえば、夢を語ることは、私的でプライベートなことを語ることが許された場にとどめておかないと、社会での信頼と地位を失うことにつながりかねない。夢は大方の場合、不合理性の側に入るからだ。



合理性・不合理性とは何だろうか？ 合理性とは、社会で広く受け入れられている論理や理論に合致することを、逆に、不合理性とは、既存の論理や理論から外れたものを意味する。

歴史を振り返れば、合理性・不合理性の境界は常に変容してきた。かつては不合理とされた発想が、後の時代には合理的な考えとして受け入れられることもある。科学の世界では、ニュートン力学から量子力学、相対性理論へと進んだ。そして、その変容にともない、人類の知識と理解が深化してきた。

科学技術者だけでなく、事業、芸術、文化にいたるあらゆる創造的な仕事に携わる人たちの生業の根源にある独創は、合理性と不合理性のはざまを埋めることである。

学術や事業における王道は、不合理を合理に変えていくプロセスであり、綿密な研究や実験、論理的な思考を通じて、新しい理論や技術を確立していくことがその根幹にある。

活動の出発点は、現在合理的とされているものの中から不合理を見出し、そこにコミットすることにある。既存の枠組みの中に潜む矛盾や限界を感じ取り、そこに挑戦する勇気と、失敗しても失敗しても挑戦を続けていく精神力が重要であるだけでなく、理不尽さを他の人の共感が得られるように表現し、共有することで、広めていくコミュニケーション力が不可欠だ。

福知山公立大学 理事・副学長 西 田 豊 明 (理事)